

次号予告

特集 不動産業界

不動産経営一分譲事業における最適戦略の経済分析	前川 俊一 (明海大学)
不動産開発における共同行為—社会資本整備を例にして—	谷下 雅義 (中央大学)
不動産市場の読み方	川口有一郎 (明海大学)
米国の不動産市場の動向	磯部 裕幸 (Real Town Japan)
これからの不動産投資と不動産指数—不動産投資市場におけるインフラ整備の必要性—	西岡 敏郎 (日本不動産研究所)

編集後記

●あけましておめでとうございます。かつて、英語で西暦の読み方を教わったとき、2000年を何と読むんだろうなんて思っていたのですが、もう目の前なんです。

●学生時代、なんでもよいのでAHPで評価せよという課題が出されたとき、新都心での待ち合わせ場所の評価を行いました。待ち合わせ場所として、最もメジャーな大画面テレビ前がよいという結果が出たにもかかわらず、その後も友達との待ち合わせは、あいかわらず改札口でした。習慣が勝ってしまった悪しき例です。広辞苑では、習慣は「少ない努力で反復できる行動様式」とあります。習慣を打ち破る評価結果を取り入れるには、エネルギーと努力が必要なので、私生活のちょっとしたことだと、つついとおっくうになってしまいます。

●昨年のわが大学の大学祭テーマ「ドブにはなったガマガエル」は、現状に甘んじて安穩と過ごさず、積極的に生きていこうという意味だそうです。学園祭で焼きそばを焼いたり、ステージで歌ったりしている学生がどれほどこのテーマを意識していたかは知りませんが、とっても大切なことだと感じました。習慣を破って、つねに新しいことにトライする。「ドブから出よう、ガマガエル」を今年の私のテーマにしようかと思えます。

●先日、ある雑誌に大手企業が奇想天外なアイデアを採用し、なんでもトライする商法を取り入れているとの記事がありました。旧体制を一新して成功するには、それなりの意思決定過程を経ているのでしょうか。ORの手法が使われているかもしれません。

●ORは、ドブから出るためのお手伝いをするものかもしれないと感じます。(繁野麻衣子)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 大山達雄(政策研究大学院大学) 副委員長 田口 東(中央大学)

委員 葛山康典(早稲田大学)、栗田治(慶応義塾大学)、笹山晋一(東京ガス㈱)、猿渡康文(筑波大学)、椎名孝之(㈱電力中央研究所)、繁野麻衣子(筑波大学)、清水康司(青山学院大学)、外嶋成留(住友金属工業㈱)、田中宏和(神奈川工科大学)、田村明久(電気通信大学)、原 裕淳(㈱東芝)、宮崎知明(富士通㈱)、山下英明(東北大学)、吉野秀明(日本電信電話㈱)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成11年1月号 第44巻 第1号 通巻457号

代表者 水野 幸 男

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

編集人 大山 達 雄

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 970円(本体924円) 年間予約購読料11,040円(税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ